

關桂金子 漢詩人、狂詩文作家、易者。嘉永七年十一月五日薨。

後國^{ひが}出生れ、明治廿年(1887)一月、一キセ日没(八番十九ヶ)。本名謙之、

字伯東。別號草堂、亨堂閣主、南華堂隱道人、散錄魔王、梅癡居士、

桂金居士、益子、益痴子、石蠶子、茶益節、石穀子、超巖、關旭巖、

關梅癡、關謙生等。祖父舊川は帆足曹門^{じふくしやうもん}に次ぐ藩の領儒、父星巖は耳

く洋學^{ようがく}に耽^{うなが}る慶應^{けいこう}一年病歿。明治初年大阪に出て開成學校^{かいせいがっこう}に進む、

上京^{じょうきょう}して大藏^{だいちょう}の學生^{がくせい}に入る^{いれる}學資^{がくし}讀^よが歸鄉^{かきさう}。八年再渡上京^{じょうきょう}し、何體^{がのたい}

の周旋^{しゅうせん}で内務省^{うちむしゆ}の等外出仕^{とうがいしゆ}。十年辭^さる報知社^{ほうちしゃ}に入り、栗本錦雲^{くりもと きんうん}の

知遇^{ちむつ}を得^{いた}。豫^おて新聞雜誌^{がいしんざっし}の役書^{わくしょ}から成島柳北、石井南橋等^{なみはし}と認^のめられ、十二年創刊『鳳鳴新誌』の局長^{きょくちょう}に抜擢^{ばくせつ}された。翌年丸山作樂^{まるやま さくらく}

の『開拓印報』に脚綱^{あしづな}と共に大社^{だいしゃ}。また服部撫松の『東京新繁可記』

に載^のり、『旅銀街小誌初編』(明治十五年1月)一七八(古今藝苑)に著^{あつ}はし被評^{ひひやう}される、一躍^{いつはく}急進^{ききん}へと升^{あが}つた。

十七年司法卿^{しはきよ}山田慶^{よし}兼^{けん}の隸官^{れいかん}として法務^{ほうむ}に出仕^{しゆ}し、一月、五生^{ごじやう}の任

職^{しょく}。一十八年立報社^{りつぽうしゃ}に入り、(福地)櫻痴居士^{さくら痴きゆうし}に對^{たい}して梅痴居士^{ばいきゆうし}と稱^{めい}し、紙上^{しじょう}に活躍^{かつやく}。まだ狂詩^{きょうし}を指導^{しどう}し、柳北、南橋之後の狂詩擅^{せん}じ、

市川玩球^{いちかわ はんきゅう}(中島勝義)、眞木癡囊^{まぎく ちのう}と共に^{ともに}活躍^{かつやく}。二十九年伊藤博文^{いとう ひろみ}に拔擢^{ばくせつ}され帝國製度調査委員^{ていこくせいどとうさくいん}事務^{じむ}。二十六

年辭^さる金地院内^{きんじいんない}で開運秘訣^{かいうんひくつ}講^{こう}師^しとなり、『開運秘訣^{かいうんひくつ}』全^{ぜん}一冊^{せき}(明治三十七年十一月)刊行^{かんぎょう}。

